

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 98 号 2024 年秋号

2024 年 9 月 6 日発行

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行
発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415
<http://nadogaya-biotope.com/>

念願のヘイケボタル「自生」確認です



Bゾーンにて 2015年7月撮影：ヘイケボタル、右は発光中

数年前からヘイケボタル観察会終了後の、7月～8月に観察報告があり、放流したホタルではなく自生しているのではないかと半信半疑に思っていました。

今年はホタル幼虫の飼育中に、温度管理トラブルで全滅してしまい、放流が出来ず、丁度この機会に検証ができるのではと見守っていました。そうした中で、6月14日にA・Bゾーンで6匹を観察したのを皮切りに7月21日まで8回、会員から観察の報告が相次ぎ、ビオトープ自生の確証を得ました。会員皆様の長年にわたる環境整備によってようやく念願が叶い嬉しい限りです。以下保全活動経緯です。

ホタル保全活動経緯

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 10周年記念誌では、1988年当時は「名戸ヶ谷ホタルの里」として市民に開放され、ホタルが数多く見られたそうです。その後付近の開発が進んで自生のホタルは、いなくなりました。ビオトープを育てる会では、2006年からは毎年A・Bゾーンにホタル幼虫放流を続け、2010年からはBゾーンの用水路（回生の里側）へ一本化しました。その後も放流を続けるも、2017年頃まで観察会は0～4匹と低調でした。

2017年からAゾーンのホタル水路へ変更し、草刈り、餌となるカワニナ、サカマキガイの放流、遮光ネット張り、又東武バス車庫の外

(次ページに続く)

灯向きを変えてもらうなどの諸対策を行いました。

こうして、2019年になってからは複数のホタル数を観察できるようになりました。

会員皆様の協力により生育環境が整備されてきた結果の賜物です。これから更にビオトープ生まれのヘイケボタルが乱舞できるよう環境保全維持に努めたいと思います。

(藤平 三郎)

ホタル観察会推移						
年	観察日	確認数(匹)	参加者	観察者	Aゾーン	Bゾーン
2024	7月21日	10		佐藤	10	0
	6月28日	14		山村	12	2
	6月24日	16		佐藤	10	6
	6月22日	13		藤平	5	8
	6月20日	7		久米	3	4
	6月17日	9		倉岡	5	4
	6月16日	9		佐藤	0	9
	※ 6月14日	6	自生確認	小笠原	1	5
	6月10日	10				
2023	6月24日	20	45人	幼虫放流数	11	9
	6月17日	16	6	120匹	12	4
	6月10日	10	18		6	4
2022	6月25日	16	20人	100匹	10	6
	6月19日	15	14		10	5
	6月12日	8	10		8	0
2021	6月26日	0	19人	120匹		
	6月20日	2	33			
	6月13日	2	18			
2020	6月27日	1	4人	130匹		
	6月23日	3	8			
	6月15日	15	3			
2019	7月1日	6	2人	120匹		
	6月26日	9	3			
	6月22日	7	11			
	6月19日	10	3			
	6月16日	7	3			
2018	6月30日	3	18人	125匹		
	6月24日	6	1			
	6月16日	0	1			

年	観察日	確認数(匹)	参加者	幼虫放流数
2017	7月2日	2	15人	130匹
	6月26日	1	4	
	6月19日	1	3	
2016	6月20日	0	2人	167匹
	6月25日	0	3	
	7月3日	0	7	
	7月10日	0	1	
2015	6月20日	1		212匹
	6月27日	2		
	7月5日	1		
	7月11日	1		
2014	6月21日	0		200匹
	6月30日	0		
	7月5日	4		
	7月12日	0		
2013	6月30日	3		200匹
	7月7日	1		
	7月15日	1		
	7月21日	1		
2012	7月2日	0		200匹
	7月8日	0		
	7月15日	2		
2011	7月7日	2		不明
	7月14日	0		
2010	7月7日	1		不明
	7月13日	0		
	7月22日	0		

※ 回生の里側か
ホタル水路へ変更

ビオトープ説明看板を更新、移動しました

ビオトープ発足時に設置された説明看板「水辺の生きものゾーン」と「水田生態系の復元ゾーン」が紫外線等による劣化でほとんど確認できない状態になっていました。昨年、市との定期会議で更新予算計上をお願いして、今年度1基分の予算が別枠で確保できました。内容は旧デザインを元に現状に合わせて一部の生きものや植物を入れ替えました。又、水田生態系の看板がザリガニ釣り場前にあったので、掲示板市道向かいの田んぼ前に移動し

ました。ベンチに座っても見えますので、多くの来訪者にも関心をもって頂けるでしょう。

(小笠原 智)



移動した「水田生態系の復元ゾーン」説明看板

春の生態調査実施

6月19日(水) 快晴、気温 25度 9:00～10:30
 雨は上がって朝から快晴の天気となりました。参加者は講師の松清さん、小笠原さん、堀尾さん、藤平と4名です。A、Bゾーンを回り観察し、鳥類は割合少なくハシブトカラス、スズメ、シジュウカラなど、ウグイスのホーホケキョと美しいさえずりが響き渡っていました。

アゲハチョウ科で、ナミアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、ジャコウアゲハが花を求め飛び回り、また新しい発見では3種で、オナガグモ、ルリチュウレンジバチ、エサキモンキツノカメムシでした。確認できたものは42種です。昨年同時期は38種でほぼ同水準です。

引き続き良好な生息環境を維持していると思われます。
 (藤平 三郎)



左 生きものを観察中
 右 網を張っているコガネグモ



左 西洋アサガオの蜜を吸うナミアゲハ
 右 観察した生きものをリストアップ



説明看板の更新版です



雀除けネットを掛けました

うるち稲は7月中旬、もち稲は下旬の早朝に花が咲き始め、稲穂が垂れ始めるとスズメやキジバトが食べに来ています。無農薬で安心して食べられるので、多く集まってきます。梅雨明けは連日猛暑でしたが10日はちょっとだけ雲と風があり、田んぼ全体にネットを掛けました。稲刈りまで1ヶ月ほどですが守ってくれます。(稲刈り後はざがけにも引き続きネットは掛けます)シオカラトンボやギンヤンマが田んぼで羽化するので、逃げ孔も作っています。

ハスが満開です

今年も休耕田のハスが見事に咲きました。白の巨椋ハスの勢いがピンクの大賀ハスより強いようです。多くの方が写真を撮っていました。

(小笠原 智)



ネットを仕舞う時の閉じ紐が解けず苦戦中



中央部を高くしてトンボが逃げやすくしています



月例活動状況のお知らせ (6月から8月まで)

6月16日(日)

明け方まで降っていた雨は上がって作業開始時は曇り空で、湿度は80%とムシムシです。作業は、田んぼのコナギ取り、Bゾーンヨシ、セイタカアワダチソウ、など外来種の刈り取りを行いました。気温も上昇し、熱中症に十分気をつけながら作業を終えました。終えて会員手作り料理を頂きながら歓談しました。朗報で、14日の夜にヘイケボタル6匹を観察しました。ホタル水路とBゾーン三角池周辺です。今年には幼虫が死んで放流はなく、自生していることが明らかとなりました。



長い竿の熊手でコナギ取り



コナギ取り



Bゾーンヨシ、外来種の刈り取り

7月28日(日)

当初21日(日)の予定が、猛暑のため延期となり28日(日)となりました。朝から日差しが照りつけて湿度は80%近くでした。作業は、市道沿い、木村邸側水路脇土手を草刈り機で刈り取り、ザリガニ釣り場のヨシの刈り取り、Bゾーン木道沿いのヨシなどの刈り取りでした。終えて皆さん汗だくです。十分水分を補給しながら、会員手作り料理を頂き歓談しました。又、6月に行われた土小学校の校地外体験学習での児童たちの感想文集が届いて、皆さんご覧になりました。



市道沿い、木村邸側水路脇土手を草刈り機で刈り取り



ザリガニ釣り場のヨシの刈り取り

8月10日(土)

作業開始は、曇りで涼しい風が吹いていて、終えてから晴れ間が出て暑くなりました。うるち田、もち田の穂が順調に伸びてきて、昨年と同時期で雀除けネット張りを行いました。各会員は、手際よく作業を進め早めに終了して、会員の手作り菓子を頂き歓談しました。今月31日(土)は、稲干し用のはざがけパイプ組み立てを予定で、通常の活動日18日(日)は、なし。(藤平 三郎)



← 雀除けネット張り作業 →

ビオトープで再・新発見

ハンノキとカワヤナギ



左側のハンノキが水田跡から出現したハンノキ



カワヤナギ

ハンノキとカワヤナギは「ビオトープに相応しい樹木」と言えます。いずれも湿地に生える樹木だからです。

ハンノキとヤナギ類は手賀沼や谷津湿地に生えていて、ビオトープ付近でも、今から30年前頃までは、現在のケイヨーD2の辺りにハンノキ林の名残りが数本残っていました。

ビオトープ設立当初にはハンノキが無かったので柏市が植樹をし、それが今も残っています。その後、Bゾーンの水田跡からハンノキが出現してきました。今ではそれらからの種子分布によってかなりの数に増えています。



ハンノキ

カワヤナギはAゾーンに最初から残っていました。Bゾーンにあるカワヤナギは、Aゾーンのものを移植したものです。

湿地に恵まれた柏市では、昔からハンノキやヤナギ類は沢山生えていたと思いますが、湿地の埋め立てなどで、今では、これらの樹木も希少なものになってきています。

小さな名戸ヶ谷ビオトープに二つの樹が今も見られるのは素晴らしいことです。大切にしたい樹木です。（佐々木 光正）

9～11月の活動予定

9月7日・8日：稲刈り 13日：名戸小稲刈り 10月12日：脱穀
15日：9月定例活動日 16日：秋の生態調査
29日：生きもの観察会 11月 3日：収穫祭

注) 詳細の日時・作業内容はグループメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）